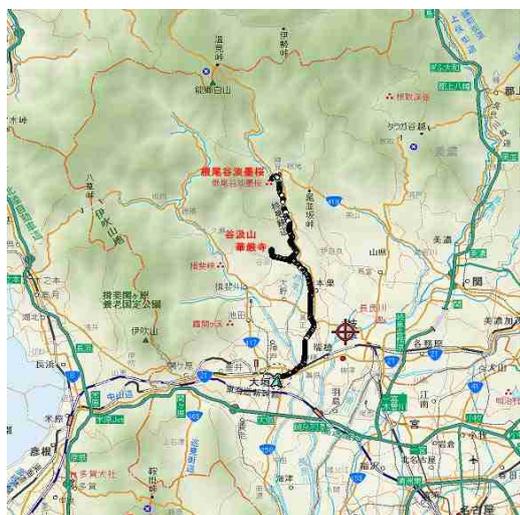


# [写真アルバム] 樹齢1500余年 揖斐川 根尾谷に咲く「淡墨桜」

岐阜県本巣市 根尾 2009.4.8.



越前と美濃国境に真っ白な頂を見せる「濃郷白山」そこから流れ下る揖斐川の分流 根尾川の上流 根尾谷  
大垣周辺で揖斐川に合流する根尾川沿いを樽見鉄道が「樽見」まで遡る  
樽見鉄道の終着駅「樽見駅」の対岸 根尾川右岸の河岸段丘の上に  
川を見下ろして1500余年咲く一本桜の巨樹「淡墨桜」  
蕾のときは薄いピンク、満開に至っては白色、散りざわには淡い墨色になる



淡墨桜のある奥美濃 根尾谷の位置 大垣より根尾川沿いを遡る樽見鉄道で約1時間  
沿線途中に西国33ヶ所 満願札所 谷汲山華厳寺への谷汲口もある

九州から始まった桜前線が南から北へ駆け抜けてゆく。今年も また 一本桜に出会いたい。

今年は 日本三大桜のひとつで まだ、出会えていない 岐阜県奥美濃 根尾谷の「淡墨桜」に行こうと。

桜というと満開の桜の花を鑑賞するか 桜の下で春を楽しむという見方しか知りませんでした、7 年ほど前に三春「滝桜」に出会って、その堂々とした風格に強く感動。「ただただ、あっけにとられてみいていた」のが、「一本桜との出会い」を意識した最初。こんな桜との出会いもあるのだと、毎年春になると一本桜に出会いたくなる。

4 月 12 日天声人語には

「一本桜に魅せられるのは 花ばかりでなく その節くれだつた幹 その堂々とした姿。

有名でも 無名でも 一本桜は 見に行くのではなく、会いに行くのがふさわしい」と。

本当にそんな心情です。

風雪に堪え、何事にも動じず、どっしりとその地に根を下ろし、枝を精一杯広げ、満開の花で包んでくれる。

静かな気持ちの中で、ふつふつとエネルギーが満たされる。

岐阜県奥美濃 根尾谷の「淡墨桜」。

山梨県北杜市武川町「山高神代桜」 福島県三春町「滝桜」と共に日本三大桜のひとつ。

越前・美濃国境の濃郷白山から流れ出て、揖斐川に合流する根尾川が流れ下る根尾谷の奥に咲く樹齢 1500 余年の老巨樹。

数十本の柱に身を委ねた老木ながら、大きく広げた枝には、ほのかなピンク色の花をつけ、淡いピンクから満開に近づくにつれ白色に変化し、そして散り際には淡墨色を帯びることから「淡墨桜」と呼ばれる。

かつて台風や大雪など幾多の危機に見舞われたが、そのつど 多数の人々の努力と手厚い保護により不死鳥のごとくよみがえり、人々を楽しませてくれている。今年には是非 満開の花をつけたその姿を見に行こうと。

淡墨色の実際にも出会いたい。

#### 4 月 12 日 朝日新聞の天声人語より

▽ 日本三大桜の一本、樹齢2千年とも言われる山梨県の神代桜を訪ねた。

周囲12メートルもある幹は、黒い巨岩を思わせる幹から清楚な花が乱れ咲く。

瘤だらけで洞をなし節くれだつている。その貫禄は残雪の南アルプスに向かって、一步も引かない。

▽ 桜の花は万人に愛でられるが、幹もまた捨てがたい。

「桜の画家」で知られる中島千波さんは、「花を描くというより幹を描く」といい、桜の表情は、花よりも幹に真骨頂があるのだという。

もう一つの三大桜である樹齢 1500 年という岐阜の淡墨桜を初めて見た中島さんはその幹に圧倒されたという。

「古代人がそこにいるように感じた」そうで、以来歳月を重ねた一本桜の肖像画を描く気構えで桜に向かうという。

▽ 群生の桜は「見に行く」だが、有名でも 無名でも一本桜には「会いに行く」というのがふさわしい。

4 月 12 日 朝日新聞「天声人語」より 抜き書き整理

「淡墨桜」のある根尾谷は越前・美濃国境の濃郷白山からまっすぐ南へ流れ下る根尾川の流域で、根尾川は山を越えてひとつ西の谷筋を流れ下る揖斐川に大垣周辺で合流する。交通アクセスは大垣から根尾谷の奥部 樽見まで、根尾川沿いの溪谷を樽見鉄道が伸びていて、約 1 時間で結ぶ。そして、終着駅「樽見駅」の対岸 根尾川右岸の河岸段丘の上に、川を見下ろして 1500 余年。一本桜の巨樹「淡墨桜」があり、蕾のときは淡いピンク、満開に至っては白色、散りぎわには淡墨色になるという。

この根尾谷の一番奥「濃郷」から濃郷白山を北に越えると越前大野。また、この樽見鉄道の途中駅「谷汲口」からは、西国霊場 33 ヶ所 満願札所の谷汲山華嚴寺がすぐ近くで、多くの参拝客でにぎわう。ここも桜の名所と聞く。

この根尾谷の東側 長良川が流れ下る谷筋もまた、美濃と越前を結ぶ街道筋で、福井／美濃太田を結ぶ越美線の建設が進められたが、ついに国境越えはどちらも悲願ながら実現ならず。濃郷白山・白山と続く越前国境 奥美濃の地形の厳しさがわかる。

今はようやく東海北陸連絡道が富山へ伸びて、北陸への高速アクセスが実現した。

大垣や揖斐川沿いへは仕事で何度も訪れた工場があり、大垣駅で何度も見ていた樽見鉄道なので土地勘はある。

あまりにも有名な「淡墨桜」 満開の時には 本当にすごい人なのだろう。でも 出来れば、名前の由来となった「淡墨」色の時に出

会いたいとインターネットで満開の時期を調べつつ、満開の報が出て数日たった4月8日 快晴の早朝。家内と二人 青春18キップ片手に根尾谷の「淡墨桜」と谷汲山の桜を訪ねて大垣へ。

そして、そこから 満員の樽見鉄道の列車で根尾溪谷を分け入って、根尾谷「淡墨桜」へ。

樹齢 1500 年の一本桜「淡墨桜」 堂々と左右に手を広げた「淡墨桜」

長い風雪の歴史を刻んだ太いこぶだらけの本体。過去の幾多の危機の話聞き、また、写真で見る柱で支えられた写真の姿に心配していましたが、多くの柱に支えられてはいるものの、そのたくましい生命の息吹きというか 元気な姿に出会えました。

こぶだらけのごつごつの本体から もうありったけの力で 左右対称に目いっぱい手を伸ばして、満開の花を咲かせ、まるで 今が大事と 見入る人たちを鼓舞しているような姿で 素晴らしい

近づいてこぶに目をこらしたり、手を大きく広げて 花のおいを 胸一杯に吸い込んだり。

また、少し離れて眺めたり、座りこんでみたり、寝そべったりと 周りをぐるっと一周。

ものは言わないが、人をひきこんでゆく。やっぱり いいなあ……と。出会いに来てよかった。

また、少し離れてみると そう 思ってみる精でしょうか 周りの桜より 少し 白みがかって見え、これが「淡墨」かと。

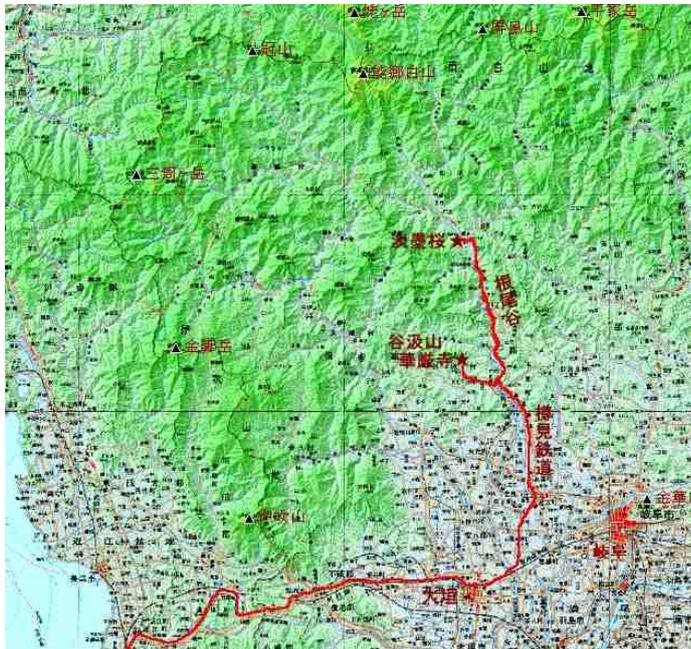
根尾谷へ分け入る樽見鉄道は桜満開の桜街道。「淡墨桜」も 真っ白な残雪を抱いた濃後白山と春の淡い緑に衣替えした根尾谷をバックに満開の薄墨色。また 帰りに訪れた谷汲山参道も桜のトンネルも久しぶりの体験。

一日 春真っ只中 根尾谷の春を満喫してきました。また、今年も 素晴らしい一本桜に出会えました。

皆さんには どんな姿に映るでしょうか、

根尾谷「淡墨桜」を中心に 4月8日「根尾谷の春」walk を写真アルバムにしました。

### 4月8日 根尾谷「淡墨桜」walk 行程図



- ↓ 大垣へ  
神戸⇒(新快速 米原乗換)⇒大垣
- ↓ 大垣から根尾谷へ  
(樽見鉄道 根尾川沿い根尾谷) ⇒樽見
- ↓ 淡墨桜公園へ  
(徒歩)⇒淡墨公園
- ↓ 谷汲山 華厳寺(ピストン)  
樽見⇔(樽見鉄道) ⇔谷汲口⇔  
(バス)⇔谷汲山 華厳寺
- ↓ 大垣へ  
谷汲口⇒(樽見鉄道) ⇒大垣
- ↓ 大垣から新快速 米原乗換 神戸へ



桜満開の根尾谷 樽見鉄道沿線

2009.4.8.

# 1. 樽見鉄道で大垣から根尾川沿いを根尾谷奥の樽見へ



春真っ盛りの樽見鉄道で根尾谷へ 2009.4.8.

10時7分大垣発 樽見行に乗車。乗客の2/3が観光客で、其の内 約1/3が谷汲山参詣 2/3が終点の樽見へ淡墨桜見物。もっと 満員かと思っていましたが、朝早く出たこともあって、ざっと一杯。樽見 11時12分到着まで約1時間の列車。

構造は良くわからないが、レールバス。大垣を出発して、東海道線と平行して東へ。それから程なく揖斐川の鉄橋を渡って大きく北へカーブして 田園地帯の中を正面に見える山へ向かう。このあたりは富有柿の産地 今はまったく葉のない柿の木の果樹園が点々とあり、線路際には菜の花やたんぼぼ 黄色の行列。そして 満開の桜。春一杯の樽見鉄道沿線。車内は花見客の声で華やぎを乗せて 根尾谷へ向かう。



大垣をでると東へ 東海道線と併走 揖斐川鉄橋を渡ると北へ大きくカーブして山並みへ一直線 2009.4.8.



葉が落ちたままの柿の木が立ち並ぶ沿線 樽見鉄道周辺は富有柿の産地 本巣を過ぎるといよいよ根尾谷へ 2009.4.8.

約 30 分ほどで北の山並みが近づくとこの沿線の中心地「本巣」。そして、次の織部駅からはツアーコンダクターに引き連れられた一群も乗り込んでくる。これは???と不思議でしたが、いよいよ根尾谷の溪谷に入り、根尾川沿いを列車が走り出す。



谷合に入り、根尾川に沿って 北へ 2009.4.8.

時々 並行する国道がちらちら見えるのですが、車が渋滞。先ほど多くのツアー客が乗り込んだ理由が合点です。  
 いくつかトンネルをぬけると満開の桜が出迎えてくれる谷汲口駅。列車は桜のトンネルとアマチュアカメラマンが写真機を構えている中 駅に滑り込む。西国霊場谷汲山に向かう人はここで下車してバスで 谷汲山へ向かう。



桜満開のたるみ鉄道 谷汲口駅 2009.4.8.

ここから先はさらに狭い溪谷で 何度も根尾川を渡ったりトンネルをくぐったりしながら根尾谷の奥へ進む。  
 狭い峡谷を何度もトンネルを抜けて、終着駅樽見のひとつ手前 水鳥駅のところが、根尾断層が横切る地点。神戸淡路大地震で野島断層が有名になってしまいましたが、昔習ったことがある。  
 ここを抜けると谷が少し広がって、視界が大きく開け、北に雪を抱いた濃郷白山 奥美濃の峰々が根尾川の向こうに見え、鉄橋を渡って 長いトンネルをくぐると程なく終点樽見駅。いよいよ 淡墨桜に会える。



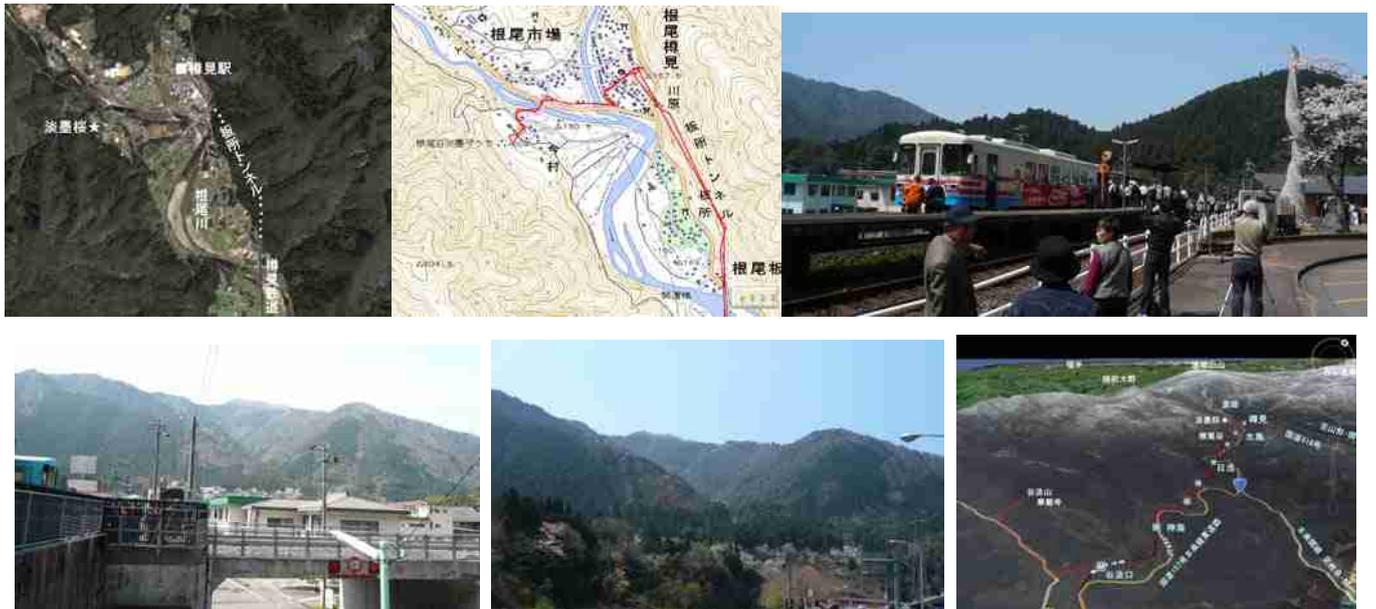
トンネルと鉄橋で根尾川を縫うように走り抜けると行く手に白く雪を戴いた奥美濃／越前国境の山々が見え出す。

根尾川の鉄橋を渡り、トンネルを抜けるとまもなく終着駅樽見 2009.4.8.



「淡墨桜」に向かう人の群で一杯の樽見駅 「淡墨桜」は駅の西側の山裾 根尾川の対岸にある 2009.4.8.

## 2. 根尾谷 樹齢 1500 年 天然記念物「淡墨桜」



樽見駅より 西側 根尾川の対岸の山際に「淡墨桜」のある淡墨桜公園 2009.4.8.

樽見駅前で淡墨桜公園までの案内図を貰って駅のすぐ横のガードを潜って西へ根尾川の方へ進む。

正面に根尾川右岸の山々が連なり、その山裾に薄ピンクに色づいた桜の帯、山その上の尾根筋には緑の midpoint と桜が見え、桜の花が峰の上へも駆け上がった。

根尾川の土手に沿って走る国道に出ると川より一段高い丘に桜の帯で、そこが淡墨桜公園。

その南側の駐車場へ橋を渡ってゆく車の列が続いている。歩いている我々の順路は北側の橋を渡って、淡墨公園の丘へ登ってゆくのですが、橋の袂の土手にも桜が続き、満開の花を付けている。



根尾川に架かる橋からみえる淡墨桜公園



根尾川の橋からの根尾川

橋を渡った所から丘の上へ登ってゆくジグザグ道。その途中からは根尾川の奥に満開の桜の花越しに真っ白な雪を戴いた濃郷白山の美しい姿が見えました。山里は既に春なのですが、越前・奥美濃国境の山々はまだまだ雪の中。坂道を登りきった所から公園への道には露店が並び、バスツアーで訪れる人が多いのか一気に人の波。露店越しに 大きな桜とその周りにいる人の群が見える。「淡墨桜」との初対面でした。



淡墨桜公園への登り坂の途中から仰ぐ濃郷白山の白い峰 2009.4.8.



淡墨桜公園へのジグザグの登り坂 2009.4.8.



登りきった丘の広場に満開の「淡墨桜」 多くの人を取り囲んでいました 2009.4.8.



樹齢 1500 余年 揖斐川 根尾谷に咲く「淡墨桜」 岐阜県本巣市根尾板所 2009.4.8.

樹高 17.2m 枝張り東西 23.9m 南北 21.2m 幹周り 9.1m の彼岸桜

川を見下ろして 1500 余年の一本桜の巨樹「淡墨桜」 蕾のときは薄いピンク、満開に至っては白色、散りざわには淡い墨色になる

周りにある桜と比べると、なんとなく「淡墨桜」の方がちょっと白っぽい。 これが、「淡墨色か……」

「淡墨桜」の正面へ出会いに行く。 ごつごつした本体とそこから思い切り広げた枝に満開の桜。

ニュースなどで思い浮かべてきた老木の弱弱しさは微塵も感じられず。元気である。満開の花が、支柱を隠してくれていて、気にならない。満開の前に来ていたら また違った印象を持ったかもしれませんが、やっぱり、満開のときに出会えてよかった。

隣に「二代目淡墨桜」が立派な桜に育っていて、代替わりの準備も出来ている。でも これからも長く花を咲かせてほしい。



近づいて こぶに目をこらしたり、手を大きく広げて花のにおいを 胸一杯に吸い込んだり。  
 少し離れて眺めたり、座りこんでみたり、寝そべったり。 周りをぐるっと一周。  
 ものはいわないが、人をひきこんでゆく。 出会えてよかった。  
 やっぱいいいなあ……と「淡墨桜」との出会いをしばし楽しみました。



樹齢 1500 余年 「淡墨桜」の本体のこぶと幹 2009.4.6.

「淡墨桜」の本体のこぶと幹もすごい。

こぶだらけのごつごつの本体から ありったけの力で 左右対称に目いっぱい手を伸ばし、満開の花を咲かせ、まるで、今が大事と 見入る人たちを鼓舞しているような姿。 樹齢 1500 余年の命の証である。

一本桜に惹かれるのも、この命の証の姿なのかもしれない。 じっと見ているだけで、気持ちが安らぐ。

風雪に堪え、何事にも動じず、どっしりとその地に根を下ろし、枝を精一杯広げ、満開の花で包んでくれる。

もう、言葉は要らない。 皆さんには どう映るでしょうか……



天然記念物 根尾谷 淡墨桜  
2009.4.8. 岐阜県本巣市根尾



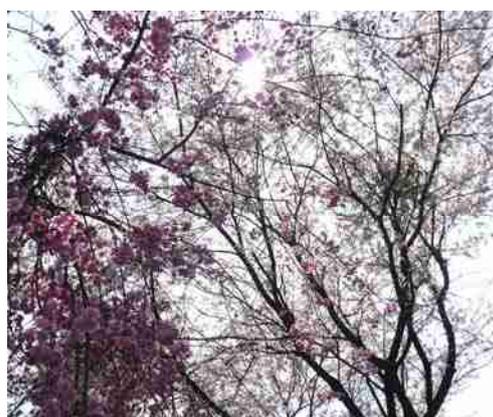
淡墨桜

淡墨桜公園で

2009.4.8.

### 3. 桜のトンネル 西国 33ヶ所霊場 満願札所 谷汲山 華厳寺 参道

「淡墨桜」に出会った帰路、樽見鉄道の谷汲口駅で途中下車。西国 33ヶ所霊場 満願札所の谷汲山 華厳寺に立ち寄りしました。谷汲山は西国 33ヶ所霊場 満願札所で多くの人を訪れる場所。「まずは参詣に」と途中下車。思いもかけず、参道は桜のトンネルに出会えました。桜のトンネルくぐったのは何年ぶりでしょうか……。谷汲口駅では満開の桜をくぐって近づく列車の写真も取れました。





谷汲山華嚴寺 山門前 2009.4.8.

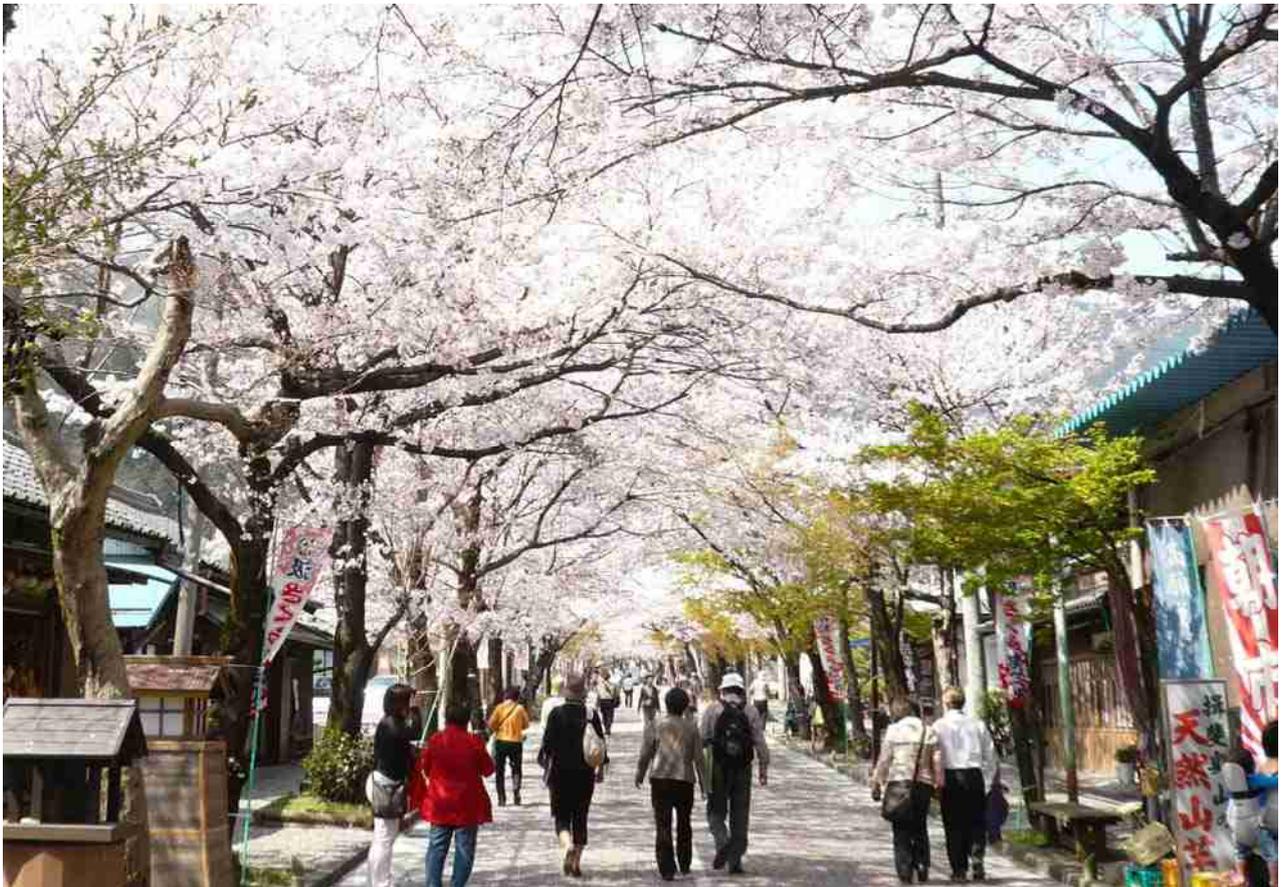
西国三十三番満願札所 谷汲山華嚴寺山門前 2009.4.8.



西国三十三番満願札所 谷汲山華嚴寺山門 2009.4.8.



西国三十三番満願札所 谷汲山華嚴寺 2009.4.8.



西国三十三番満願札所 谷汲山華嚴寺門前 2009.4.8.



「一本桜に魅せられるのは  
花ばかりでなく その節くれだつた幹 その堂々とした姿。  
一本桜は 有名でも 無名でも  
見に行くのではなく、出会いに行くのがふさわしい」と。

朝日新聞の天声人語に掲載された この言葉が気に入っています  
2009.4.12. Mutsu Nakanishi

【参考】

風来坊 Country walk 福島県三春 天然記念物「滝桜」 2002年4月

<http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/walk/kaze11.pdf>

風来坊 Country walk 2007年春 櫻の便り 山梨「神代桜」・「笠置」・「美祢 厚狭川堤」 2007年4月

<http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/walk/6walk02.pdf>



**国指定天然記念物 根尾谷淡墨桜**

1 指定年月日 大正11年10月12日

2 指定の理由 桜の代表的巨樹

3 説明 この桜は彼岸桜の一種(和名かじか)で、樹令が高く(地元では1500年と称している)枝の各所が折損して樹勢が衰えたので昭和24年に山桜の若根238本を根接ぎしたほか、種々の保護を加え回生を図った。  
現在、樹高172m、枝張り東西23.9m、南北212m、幹周り9.1mあり、花の盛りは4月上旬である。

4 伝説 今を去ること1500余年前、都での迎客を逃れこの地に潜まれた男大迹王が、長じて29才の時都に迎えられて皇位を継承し継体天皇と称せられたが、この地を去るに当り、形見として植えられたという。  
遺された一首の歌がある。  
身の代と遺す桜は身位よ 千代に其の名を榮盛へ止むる。

